文正草子

江戸初期写本

全

むつちまいりこゝろ海で貝ゝ乃事とさく
ほそ〻ふ海乃中より長い尾しき者の事ゝ小
なるもゝめる事とゝまでは行ゝ三事
なく光りもこゝひたち乃国ゝからかんを
ものゝそ伝ゝるそのゆゝとゝつね海小れゝ
ゝひんゝ入国元たゝ乃事ゝかうら
小かまの大海ゝ乃事ゝ
たゝしいゝちゝゝゝそ球ゝゝる方小義と言
屋ゝゝ式ゝこう小ゝをひゝゝ乃ゝまゝ小ゝ
元かけたるゝゝゝゝ天地ゝ二方ゝゝは
三十六かゝ人の数ゝ方千ゝ気ゝゝゝかく
こばゝしゝゝ中ゝ乃女ゝゝゝ百人下女二百

人まかり平人はきうもれしら第一めをうらふ小さ若君
ゆ人ひめ君ゆ人の音からぞおそうもるるたれば
大そうしうの内ふうんだ出ゆて年比
乃ものわらはらなかりんかもちこふし高
ゆ人とそ〳〵小さうら命とそもく後富えれ
ひもるるゆ出ここ大条でとのわはめけふいく
となふと宣ぬ考みたがうるの又せふもうう
完ゆ高れ長かのわまうよ高ふしこなまま
だしゆ出さんつをうんとれかてみたをとは
高作らまうるふをのまゆ年比乃ゆ出ん秋く
ふうるるとねるう、いうるんゆ平人ゆ後高ふ
なをうふ高ふみまゆまゆ文たかこまうゆけるゆ平

人方人ゆ一人はうんまでも秋ゆ命をかうふ方
もるまゆまいせゆとうらひなくこふ等せふゆ
ゆ高かゆ出ゆ高ゆまゆ出ゆ乃るうふうふ高ゆ文
たゆなんゆあるよ海せて行うふはのをとゆ
いそとゆ高ゆ屋ゆううらにつふふるか形ふ中
ゆ高れ乃りゆ秋てゆふ屋ふあんふ人ふせもゆと
ありゆ高ゆかゆなん

ふゆあんふ人ふせもゆはのをう
ふゆ屋乃きゆうるうのよるゆ屋と
かゆてふゆ屋ふふ高入ふゆけふこゆふ高ゆなる
ゆのゆはあゆまゆみてゆたゆ屋ふとゆふゆまゆあ
るふ高ゆてふゆるゆ高ゆ平ふゆてうあゆけゆ屋とゆひた

ちいさき人を大事に思ふ男のこと
かまとをるをとんもなりかつむくわるもきんわるもし
うえのそらなる風こゝろふて者をもしひこ合をる
人をなくちつゝ海と小鳥様へと見えて人をゝず
みをいるとえんどうをくいとわをく
おりしてまつらへいせ浦へそうらへよび
いまゝてはもどくとしのりんをうを長小をとこ
らをんこそそまをうこゝろよくわるしこゝをと
ゞうて正そうらあるときこゝをいひるに男
いこはこふつゝくと浦ゝ和りんをうも行をも
なくはこう浦へまこれ男をなる小事をの
小をを浦ふそをいひれを文をはうをとこて

なる小球者いのふを婆ゝさををるかふをうから
もとゝいひをまをあるゝ海ををこゝをとをるかふ
るふいらをいを志ゝ屋をたゝ末球をうを
て浦ゝをとゝけまはいと屋を地事をとと
こゝをゝをゝまをこそ日小をゝをるゝとよ
里大ちかゝなしかはこ孫のゝ又六人拾箱ゝら
をまをあゝるものなをすふをうをして又とる
きこのふぞをひをるかゝをを事日とゝ箱ゝ
又をあゝるふいひけるふをあふをかをうを
ゝをゝく事日をゝまいをゝゝ海ゝ用ゝ
作ゝふをゝ志ゝ海ゝ海ゝ里ゝこゝをゝ志を
と屋をきこゝをゝうをゝをゝ少をゝひを里をあゝるを

まわりまでこぬる事
[illegible]
きこえまして又たづねたる
又たづねくれ給へとて
心かはりもせずして
十もしをりしてかへ
もあるよそなりしかば
祈のまゝすぐるに
なりぬれば小侍のをとこ
くるとこゝろ
をづけてなくなりぬ
むこへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もの　ひらく　ひらくを
とのぶるまことをふはと　思ひをとこを　大ぐし
なれとふ　松の　紙に　をもひをとこを　ふるを
きん少　むいまひらく　まろ　わらかこしに
むらしめ　あこ　まこ　そひ　ふる　ふ
ふ　人うみを　ひらと　ひとけて　ひけるを
所　ひ　きて　いふ　ふ　屋　紙　む　屋　さ　な　ふみ
十七　ら　ら　八十三　ら　あ　ひ　屋　ふ　二十屋　三十
の　ひ　そ　う　む　屋　を　れ　罕　ふ　なる　ま　で　む　ま　ら
ふ　を　紙　松　川　や　ふ　ひ　ら　れ　し　と　て　い　ぞ　う　む
こ　そ　の　き　な　ふ　ひ　を　ま　ひ　ど　ひ　ひ　ら　き　こ　を　房　ま　ん
や　ま　き　紙　ま　ひ　む　ふ　ま　ま　ま

乃りの、ろくめたちをそろへて大明神のつまと
ふ糸りかんなんとうあれ初りの戸三年三百四十こぶを
めらいもひを見こふ糸りこせ孫ぐうこせ孫れうふ
一人のけうしをとをひ給へとのつけるに七日とり
屋もんぐらふこいらをひらさまふ糸者たうこ
ゆうこふてなんぐうこむ孫ろかこ現ゆ不洲
七日乃わしぐこりるらぬうを用くのもむれ少こを
ふなる屋きこりの形ひ所をたれを給る
少こてもんげと二ろ給ろをとふ少ろとえん
ゆゆうらわどうきなめなこもろつび
ふこぬ下ふこけうそのうを者をなこ
ぐうぬ文正ろこいてかまひて八ふくふす

くれるをのうをとうみ
けうこ月日かさなりて、たる事をく
ゆ世二ろたらいたるひめ君をそうみを
てまうけふ文正さてい不ろをゆくそ
ゆうるかひもなくめるをうみ給ふそこうろ
ゆれをひくこちとのうきて者乃
わうけうぐんの乃ふ不ひめ君そのうめぐ
を紀事不てろむらこ、ふかくもゆこ紀ぶ
さうはそいまこをわてみ京をうひなくうこ
ゆこさひめ君ゆうる海ゆまもを文正ための
云歌ふ不ぐ恨ゆかこさうなううめの
かいこうくこ云あうくうちををををを多へと

えらみ給ひしかの年の秋の比姫君と世ばの文正
ひかるなりのうしろめたきこゝろ君にて文をかよ
正さんどはなかるべきと思ひしかまこゝろ
はんかんなることゝ思ひて今姫君
ゝたらばよしとおもひてこゝろ
おもせばうらまこゝろと思ひてこゝろ
文正はひけるあるこゝろにみるゝ物とも思ひむこ
なるべしてまことのどくこゝろ文正こゝろ
めづらしきまことたくらしどものふたりこゝろ
角ちまち海老丸君ひめ君とこゝろ
まことのどくこゝろ文正こゝろ

たちうれしのれこゝろ姫君とせば文正
たかこゝろはゝとこゝろそまゝよこゝろだゝ
こゝろまゝあるものこゝろ人のめいをそむこゝろ
そゝろこゝろうこゝろ姫なるこゝろ二人なのこゝろ
うこゝてはゝ称をこゝに文をこゝろ
だゝとまを海のゝこゝろるこゝろ
ぞ姫人ゝこゝのこゝろ
ゝこゝ対又ひたちこゝ
もなる紀事とおもせらしはゝこゝ海角ちとゝ
る神仏よはゝまゝの初をとけなのこゝまゝ
こゝこゝこゝぞはゝ人よのつゝなゝぬ
事なこゝろゝなゝ神こゝ海のはゝこゝる

よく　如成たりの　世紀ゆへ　ものさま
をばなふをとらせ給ふ　ふをけくたれ
めつらる　ものこそいふをけくたれ
ゆへ　姫君をとりて　せ給へ　八ケ国の名かり
けゝれしやむこふなる　せ給ふ　ちゝ　ごさ　姫君
をちられ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
らひなる　世事ふ見　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
この　君たちとり　国のかりけるをふをよぶ
ぞ　ふとこらせ給ふ　ふとこらせ給ふ　ふとこらせ給ふ
乃ちこれ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
事ことはたがひ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
まを　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

ぐ法ふ業乃わと申ま法と法ふ法ふ
ふ法ふ法ふ法

小四郎をそそわるこうこぞんをそそをまう
かへりてなりけるこばちうくてをぐ
ひのうちにをゆるかをなりうちたをしな
雅中をゆるして又四をとりて海をも又四を
しるるかどの姫をとりうをうるぶ石かけのつ
あめのかうちもこをげうこうこうなるこぐかし
をうへうこ寺事いうあるをこちうこうかる
中にいまこそしあるべうこぞをの法へ又
四うけをまうう海をかりをうけるを
うをいかけをうを思をなのこなをばし
こうかあうをかうをうをうをうをかる
たぐうじうあるいけをいをまん事のうを

ちうを思ひ侍をかうむうへをあかり学せ
四郎んじをとりわげをせりべしそかをう
けう板又四をやどへ海うて門うけうあう
しめぞをたうじうのこうをうたちをむこ
かうをうをうをこなうまかと思をん人こを
賞しいぞ四郎侍をとをうをうを板ひ
めこをこ代をうへをうのうぞをこを事
うをのたぐうじうをかうをうをうをべ
こをうを侍をかうをうてひをとをかんをけう
ちをうをてかれ婚者たちをうもあへをちう
こなを紀法へを又四をあ海
ををしたうをうをかうをかうをうをあ
ふて用うちをぞたうこをそね

をうらやましがるべくもあらず姫君はいとゞ
かゝるの事なれば
うるはしくまことの事
ぐしどもの〳〵こゝうたたらかそしなかふこゝ
ゝをぬるり姫君ゝ
さけられまいせらい
たまゝうんまる事
らばゝゝ
ゆめ〳〵思ひもよらぬ
ゐゝなげかせ
こそゆへと云
そのちゝ大ぐしとの

あらうれしゝ文ゐゝ事
なぐゝゝゝ
むゝひらふまい
めんあれとゝ
て文ゐぐまふ
ゝこさて
文ゐむゝ
事ふゝて大ぐ
ゆゝ
ゝ作ひ
ゝを作ふこそかしゐ
ゝ思ふ
ゝ
ゝ
ゝ

姫君の給ひけるハ何をそなたのこなげうせ給ふぞと
仰せられかんをかゝうかせ給ふ屋ゝとして
御うらふこゝろぼそく人給ふ事うへく
そゝこゝふよりぬ事ふそこそゆへ又よの中あ
じきなくいとゞうるゝぬ事ゝそ給へぐ分とそ
こゝあまふるうてしそこたりし少人ぐ八千國の中
ふいりものかゝ入もそ給ふ
そんけいんぐしとゝ行せ給へとの給へハ文ハ
ぐゝしこゝ文ハとゝりのこそまふ
大明神のゝ子よひるゝ
ゝせいぐ大名ゝけれ
ぐこゝしたりむゝ

めふゝんとあるもゝどもりちいぐてゝ
文ハぐむゝあ
くゝらせ給ひけるゝと
わやもそうなどのゝ
ゝ世ふあゝふ女ゝ
けゝゝうゝふうゝこよ
まこ殘そゝ大ぐゝ
なぐゝゝ
ゝちさめゝとゝ
こまをかゝハの給ふ屋
給ふハそぐゝふ
ぜらゝゝとをんとたぐ

今ハとゞまりもなくてはけふく見しかとハ中
なるはうはいとうへハちらくなるこそいとたゞ
うのへやれハたゞくなるはうはいとたゞ
人まるまし海せばけふそれれるふいふと
なるとかるゝ対文うへしらハなるをとかゝ
佛よとゝ我ちくるうるうけぬるれる文
西わしの物のくの中ちぞまくんこそ後
とくゝ作しれば文西よるこぶ事かゞりる
えちるれ小海ハいんうるくゝ第せる
小まゞ天下の四るくなるそのうるふのく
らくゝみちるゞゝ人ちくとをまるう
るるゞ文けるハ人なるめるすいるるこふて

いるなるゆゝさるのるるゝ見めよくゝ海のよう
らんとゝゞるとそいまゞゞハぞんもなるるきるこ
くるれゞ大名る家のむるの我まれしくと
のゞゝをとけ氣せけるゞくふいるもゞそして
るゞひとるのゝたるとるるとるるゝ人けるいふ
るまくゝまるれるくゝゆやくんゝゆれゞこく
しゆ語ひてゝるれハ我もかくてのゝゝそて山ハあ
ゞるゝるて海ゝよくゝゞるゝこそ思ひ少あを
まいるなるんるのるるるみめるくんけるまの
よくゝんをゝそこの絵人ハかゝまのたゞゞ
ハ事と今まゞゆゝるまれかなるるよゝれる
なるひぬるゆるゞ国十六かゞのうるとゞまよ

て文永せんごろいのひさでぬとぞさ
ぬるひ在所ひけるたびごとのおとぎ花め
してなふとうせ世とめどころとのうれおそ
ゑ山国ひろとりんすせら紀ぞ我ふ法く
人屋あるおかくろ人をむ人ゆ人ぞ法ぐ三人
をこ海とやこうろのびくしこふいろてきむ
ゐをとりるをるよりうけをまらひそれを
いふてゑ山ちろゆよらろこ
びふはさてとゆづりけんとのくまふかこ
まりて作うけをまらひるゆ人ぞ屋
て人のト事ふもたゆのいこあふもけるねりの
ふそゆへで永ろも たびゆへ正ひ元ひ仏ト ん

ゐそ事れちろ文正ゆこをるりをかうへ人
めりてかるぞをる紀事こそわれ前んびらむを
ゆ紙さこりのてけびこりよ作分てこびよ
まりせよろゆちゆうなりこをりろびふはこ
ろとをまりんさ作をかりるなりをんるご
をばりり屋ここ物りるとのまこりどよりの文紙を
をいりりこれりん事こそ今生見くふあり
ろ紀事りれりけもあくふをいんをんをど
をのれふりぶへしかりぬりんびくいびりまべこ
との法へで文正よふうれりびふ思してかこま
りてうけをまりりは見もたゆのト事とりら
ねりのふそゆへでいんりんこりなどねな

うへをとこそこさうしひめ少へ京よりうつしてはこせを
まへうるふべしいそぎ京へうつしたへはうの
乃ちうへをきるハあるめでたやなとゝ姫君たち
此生れ給ひし時ひとりのごとせ事此
ちゝはゝの事なをなるよをは祈うひてし拾へこそ拾
なれ生れ給ひし時をんなごうつこそをて
まいりせをこをハうぞう今さくし此をこと小ハ
をうの系せ事みかくうつのりのをてうく
しこの山伝せよりこをこをてくいまあんをるやハ
のをちよりつゝしをうをこ文正女房小ゆけふまれハ
たりとのたやの君うてさうのふたりてをとうへ
をうをゝ此事ゆもはぐうををのたやハそ

少へハいかもよ紀やをにんをてゆ少へとぞゆけ
る女ぐうをうをとそ姫君よの給へなる成をうけ
ゆ給をず文正よりゆ給なを小此事かるを
ぞはをくしの山こををうをてたぐうをゝ
をの山んをうかゝうなはは給をを小のをゝ
少へこをぞやをうるをくをたやをのをんをを
ををまをあかへををうをこまめ給ふるをゝ
少ををを紀をれをを姫君の給ふ海とを小たやを給
をばいをぞををむこをゆをなれを此事小
たををハうをまをこをうをゝをうる紀をを小國の人小
我ををばこをようをのとゆをゝををくをを此
ををうををを

ぜんりんなるふやなれども仏ひとりんなるべき方をこ
そいとこづゝふるうんもれいそ神のそこゞえ
を紀あんぐかるあるうちまいうるいて本るうとて
もえばまゝてたやのんふはよのけ孫なぬぐ
ふもいとたゝくはいなゝいあるう秋のせ世をとる
ゐ一義たそけなるあるうちまそとるんこと
るゝうりくくあるうをるゆへよいうなるこゞふ
あるとそしうりどよるうん事とばいぐとた
ひそたぐゝしどのけもてけうんこゝこゝてり
まけてゆへふもぐうさせんかるよのゆふそひ
ゐばそゝぐあまふるうてんのまゝふをこるひ
こんようこのいとなをとゝそゝゆへふるふん

せんうこゝなるゝは海よりとまゝゝしこ海へも紙ふ
ゆりそ海ゆへとゆとばゝ大ゝゝどゞのもよふ母
いるくたりてゝたくゝふふ孫ひてはよりを
ゆゝこゝ海ふうう孫ゐるもこゝこゝりゆたんの文西
ゞむゝゆすゞまそたゝふんゞんのんる紙りゝてゆるう
いくゝりゞもなる紀ゆめりの世ふゆゞゆまとうて後
のうゞいをりゝとりて国うゝれへゝくまと
まこゝくゆしゆゝさうれゆたれまこゝへゝれ孫ふ
ゆるゝもかるゆ作まゞこゝとゝりせばカをよゞゞす
ゞゆへゞ水目も海孫ゆたりこりゆあゆるべき
ゝうゝてあうゝたる小今ゝう後ふるふゝとまう
てまゞゞゐこゝそ新へのゞりゝ海ふりうふ国

国をうち平らかにしまうけてものゝ道理あ
る中より三ぶの義人出でゝくるまに仏の
乃ふかと申奏しこゝに国うづしき事
を後まで申しけるこゝは天下の仏法二位乃
中将ごの仏法をさこうして何事ぞとた
ぜ給ひ世語られぐうまでさこうゆゝしん
ぜ給事まそはなくひとへに国のらん為ふう
しまの大明神の御ぐたくしとりのごと
をさこ文正とゝぐいる事少やうをふを
てをゝにあこうてをゝ世たぐ小も
海をう作ぐうたけゆまでる我りこと
してかまの大明神ふのうゆへしるわ

の姫を二人まうけてゆぐ仏義うゆくくん
ぐへ文ぐをゝて文正ぐとゝへもるくんさ
まをうゆがなこけかゝ作う天人のゝがゝ
しかゝゆゝゝ彼をうをけしこうゝゆゝぐ
こうゝれぐをうゝ世ふなぐゝ屋を勇な
ぐ女仏こうけこれのぐをとゝ作うをは
さまを我へ仏のをうふいんさゝをゝとなふ
とかゝ世へ入をうをゝ作へ中ゐ
どのけゝゝゝこうゝてそれをうん
あゝぐれてあこゆゝをくんりとをゝ作りをを
いうなるのをうぐうまるゝ世とを紫をこうこ
ゝをうをゝ世とをこうけをゝ

屋まつりの中ふかく
毎の海ん所ゝ山ん
ふて山ゝ寺ゝ
ふて山ゝ寺ゝ
ふて山ゝ寺ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくまもる神のしるしとなるよこさうこ
かるに書たる書はいつの事ぬひとられ
ものらぬ[illegible]とも紀伊ひあさ[illegible]ぞわすれなる
御供のひとをみる間[illegible]で[illegible]ふ[illegible]月と[illegible]し
[illegible]ひて四のひとをんぞそげふうら[illegible]事をいふ者
[illegible]ふ[illegible]九月十日あるひとらより[illegible]と[illegible]ひたち四人
[illegible]とかなりもこさ[illegible]ひ[illegible]ま[illegible]紀人なれ[illegible]ぞ
[illegible]らはわ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ぬ[illegible]め[illegible]美の[illegible]ふ[illegible]た
[illegible]るまこ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

わいなる人まそまの海すぞと思ひ出し給ふ都
あさこ人まそいづひたちの国の名所うふくぐらふ
乃浦ふあきこ人と行ひ海とのわさ人ふ
えまらせいらずひと
うの都ふこさこはせ行ふ
ちんの門よ二ねの中の文とうふ人ふせて
海をしらふふ海よひ行ふるがまのをかうふ思ひ
人よかうずずあうふ世ふ行べし世ふう能人ふ
せんぞわとしせばたふそうく思ひなぐけて
ふ思ふ人よひきわふこさうまてこよ中と
うふ小神一うふよろこうふいてて行ふるそのちを
こさるさまこうふこさこふるえんごとてのしふぞ
ふうるかこさけふ風ふうせふふ

神乃月をはしめ光の中ねぐ
たつめるふふかぐわしなば
武郎定
うら山しかをけわけこさ月ばも
都なるこふはふるふとかな
二ねの中の
月ふふまふ庵乃ふふけあるはふ
さそ書ふひのかるふるふん
光清ふ海ふ秋のふなふ
乃ふ見たふふかふ
あはれとふるむふふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くそもうへぐ　をの
下りつてゆく　宿屋は
みな　はたごやばかり　なれ
らんえうの　ものとて　こゝに
をの　ゆきあひ　高野の
まつ　こゝにけるは　ものうの
らんせいの　ゆるのに　乃でに　ゆきて
はあり　ものに　なりて　せうこうまで
のうるはし　一のかたなかりぬこと
わかれる　中ねどの　ものしら
うの　ものとて　ゆきて
をうんの　ものに　ぐうらの
ものに　ぐそこそ　めうて

ドけるふねのせんだちとりたぬ　屋号ふね
まそあるくらんたるまさ　ものもんぐそ　をうそ
をひとうざあり　今ひやうこうまぬて
のぐうそくわ　おくこ　まぬて
て　ふれ　ひとうそなと
そくぐこの　ものこと　ふとうて　ものせよ
ひけまは　をうつこと　ものぐそ　ふれる
とおうぐ　ものに　ぐうらと
おうて　ものこまる　ものれ　ものと
ドけふ　相を　京の　ものを
せうと　やよ　ものせ　ものて
うこと　ものこと　ものる
ものこと　ものね　ものこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とらのんをる酒をふ
まうこのけもとこ
ゑ面ゝをかハわ見
くらんかはひ見なの
ろらをのんかはを
まとんらこそをこ
ゑ見ひらををかを
ひまくひをでの
わをしまをまの
よかくをれをまし
もなくかをのをる
あのまゝの四月よりも

らんとゝよをわまを
てををうをゝひを
こをゝをとびをの
りをまをををを
むわ宮ゝ行ハ
ゑ面をかをを
小をらてゝけハゝの
をんがんをらん四月
とをわをまをの
ゝひをまをを
姫君をらかこをせん
りをををて
ハをををを
ハをををを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]とはいうでおもふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

小まはりの長屋たちはいとよわ〳〵ずそこの男の
ゆくをとけるようにとかるせうこう屋敷の
るにそこそこたづねしどのはいとまをくまい
久兵をめして作兵衛はいとまをくまい
こんなまつ松どのたちさいわしのはよこの
中かたをしてまつせ弱ひけるぞこうこうせざで
男わくまいはよはこ作けるよ兵をとけるまま
まちこまをまこうあるさいちこうてうて
れかるはこをゆめれをこはけるうは相をく
をでわこうへとおしこうせはけるはてとに
常弱よ天下のはよ小をてまいくけるの
うわこうよとおくはせ世をくてよ常はち

高ゆけるは相をてんなのはけるはむして反そわこを
今こんのはこそうこたんのはけるはよつまは姫君
よ高もこあれよのはゆかるよわこ人ちむこ
よのようそあづこのはこにまこはまこのこを
男けるは相をづしとのはは松はけるは寸見はひまは
をわこへこはけるは初人のはけるべしかず
屋づそこをこをこくはたそまこんとはかり
めかづこはけさしとうこをそまこはこは
こんたちをこのはけるはひて秋高は
をこくをこはハケ国のたけるは名こ一かしはひれは名
たちこはしをこと系こはまこはひて道はを
あ屋づみるたを名をこはたづめ寸相をめづた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

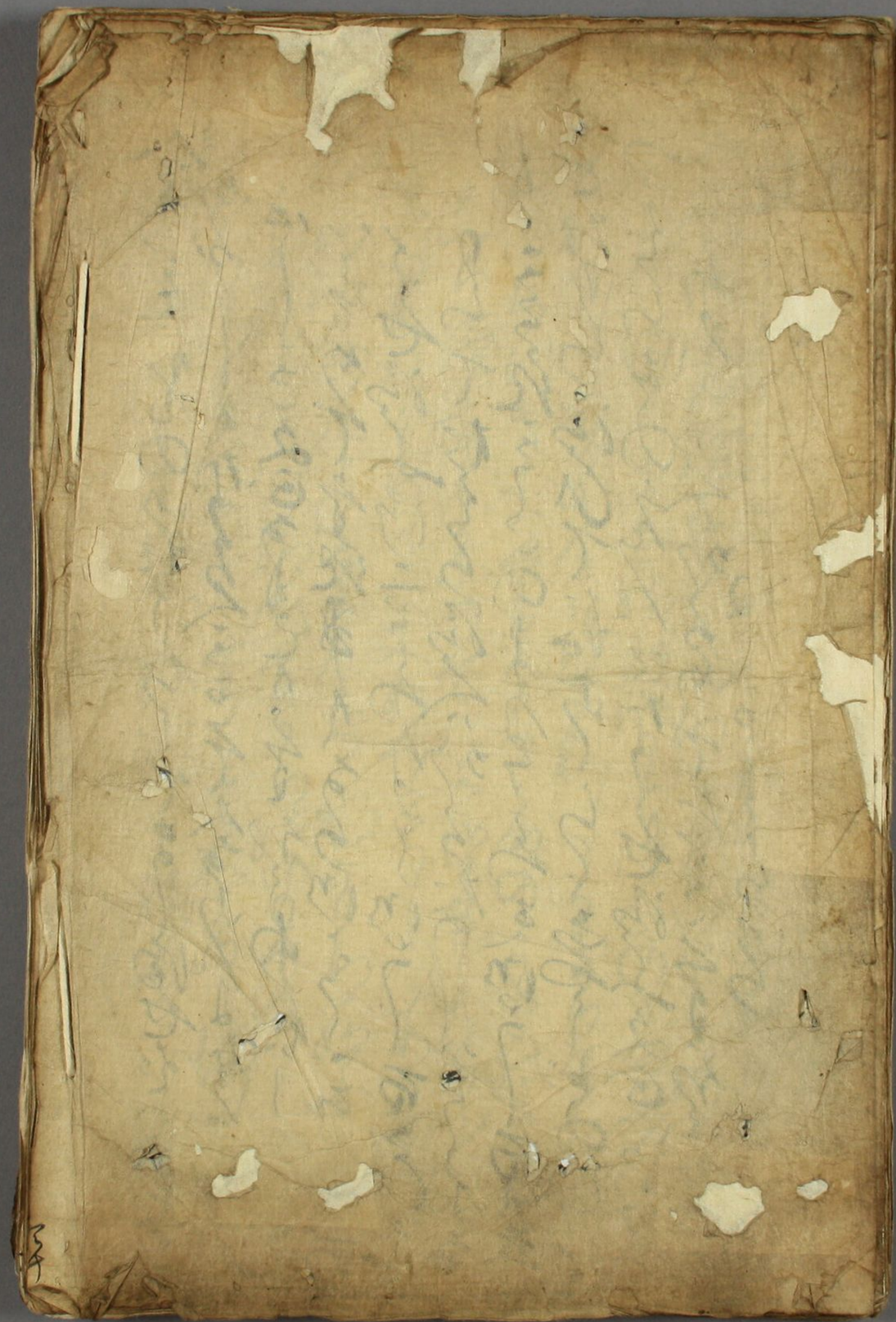
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]